

二国間クレジット制度（JCM）のSDGsへの貢献

二国間クレジット制度（JCM）x 持続可能な開発目標（SDGs）シンポジウム
JCM活用によるSDGsへの貢献
(2021年1月26日)

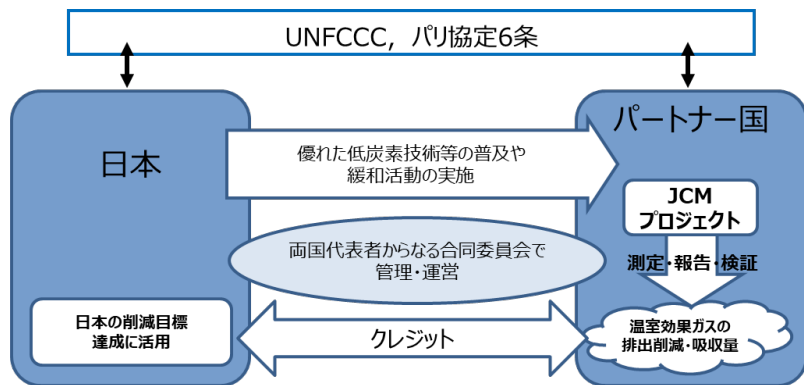
津久井 あきび/テムールン ムルン
公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES）
気候変動とエネルギー領域
研究員



目次

- 気候変動・SDGs・JCMの関係性
- JCMによるSDGsへの貢献：3つのメッセージ
 - ①多様な目標とターゲットへの貢献
 - ②プロジェクト実施分野により広がる貢献の幅
 - ③SDGsへの貢献の幅をさらに広げるための可能性
- JCM SDGs 活用ガイダンスを使ったプロジェクトの分析

二国間クレジット制度（JCM）とその成果



- 日本とパートナー国間で実施
- 優れた低炭素・脱炭素技術等の普及促進
- 温室効果ガス排出削減の定量的評価⇒日本とパートナー国の削減目標の達成に活用
- 国連気候変動枠組条約の究極的な目的の達成に貢献
- パリ協定6条の下で実施

成果：17か国・189プロジェクト・2030年までに約1,740万トン削減の見込み

導入技術例：再生可能エネルギー発電（太陽光、水力、バイオマス、風力等）、省エネルギー（冷凍機、生産プロセス、変圧器、空調器・システム、ガスコジェネレーション、他）、廃熱利用等、

JCMパートナー国（17か国）：モンゴル、バングラデシュ、エチオピア、ケニア、モルディブ、ベトナム、ラオス、インドネシア、コスタリカ、パラオ、カンボジア、メキシコ、サウジアラビア、チリ、ミャンマー、タイ、フィリピン

SDGsと気候変動 -JCMの役割-

クリーンエネルギー（目標7）
持続可能な産業（目標9）
持続可能な消費（目標12）

など²

GHG排出削減
低炭素・脱炭素社会への移行



COP21-CMP11
PARIS 2015
UN CLIMATE CHANGE CONFERENCE

パリ協定
世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求する

JCMは野心的な国際的枠組の達成を支援

SDGs達成の後押し

気温上昇を1.5℃に抑えれば、SDGsの達成が容易になる¹



持続可能な開発のための
アジェンダ2030
世界共通の持続可能な社会の未来図

出典

①IPCC 1.5℃報告書：https://www.ipcc.ch/site/assets/uploads/sites/2/2019/05/SR15_SPM_version_report_LR.pdf

②気候SDGsシナジーカンファレンス：https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/22398Summary_document_Copenhagen_FINAL_for_website.pdf

“JCMによるSDGsへの貢献” シリーズ

シリーズ第1弾 2020/3公開
JCMプロジェクト用の定量的定性的指標を開発。57の登録済みJCMプロジェクトを分析。



今後の予定
定期的な指標の更新
新規プロジェクトの分析
優良事例集の出版



シリーズ第2弾 2020/8公開
プロジェクトのSDGsへの貢献を特定・分析するためのツール。第1弾から指標を追加・更新し、新規登録プロジェクトを分析。ガイダンスの使い方解説動画の作成（2021/1公開）。



IGES出版物サイト:
<https://www.iges.or.jp/jp/pub/list/series/4680>

①多様な目標とターゲットへの貢献

エネルギー・環境・経済目標だけでなく、社会的側面に関する目標にも幅広く貢献



②プロジェクト実施分野により広がる貢献の幅

共通で貢献できる目標



4.4 技術訓練



9.4 持続可能な産業化



13.3 従業員の気候変動
に対する意識向上



7.a クリーンエネルギー
促進の国際協力



12.4 天然資源の責任
ある消費と管理



17.3 持続可能な開発支援
への民間資本の動員



プロジェクトの種類により追加で貢献できる目標

製紙工場への古紙処理システムの導入



7.3 エネルギー消費量の削減

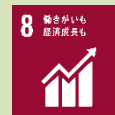


12.2 資源のリサイクル
12.5 廃棄物のリサイクル

織布工場への高効率織機の導入



7.3 エネルギー消費量の削減



8.2 開発途上国の生産工場
における技術革新

出典：IGES「二国間クレジット制度による持続可能な開発への貢献」

③SDGsへの貢献の幅をさらに広げるための可能性

共通で貢献できる目標



4.4 技術訓練



9.4 持続可能な産業化



13.3 従業員の気候変動
に対する意識向上



7.a クリーンエネルギー
促進の国際協力



12.4 天然資源の責任
ある消費と管理



17.3 持続可能な開発支援
への民間資本の動員



可能性のある技術と貢献できる目標

太陽光灌漑システム



排水処理技術



プラスチック廃棄物・ 固形廃棄物処理

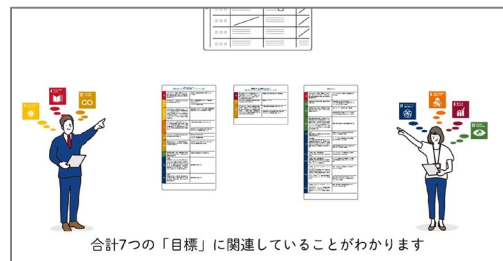


出典：IGES「二国間クレジット制度による持続可能な開発への貢献」

JCM SDGs 活用ガイドンスを使ったプロジェクトの分析



- 活用ガイドンスを使ってプロジェクトを分析するメリット
 - ✓ 企業内におけるJCMのSDGsへの貢献の理解深化
 - ✓ ビジネス戦略とSDGsの統合に関するコミュニケーションや意思決定の促進
- 活用ガイドンスの使い方を解説した動画をIGES YouTube チャンネルで公開。
<https://www.youtube.com/watch?v=PpUHKagbWGE&feature=youtu.be>



- IGESの取り組み：活用ガイドンスを使った優良事例集の作成

ミャンマー：廃棄物発電プロジェクト

プロジェクトの背景：

- 埋立処理場の残余容量の減少
- 不適切な廃棄物管理による環境（人の健康）への悪影響

プロジェクトの概要：

- 最先端の廃棄物処理設備を導入
- 想定GHG排出削減量：4,067 t-CO₂/年（平均）



廃棄物発電により化石燃料の使用量を削減し、大気汚染の軽減に貢献している。また廃棄物処理に取り組むことで周辺地域の土壌汚染の軽減に貢献している。これらの取り組みを通してプロジェクトは環境への負の影響を低減している。



日本企業は現地のエンジニアや従業員に処理場の運転・保守管理に必要な能力訓練を提供している。



高度な廃棄物管理に取り組み、廃棄物の危険性を軽減することで、地下水の汚染を防ぐことができる。プロジェクトによって導入された設備は、固形廃棄物の体積を約90%減らすことができる。



プロジェクトは、化石燃料で発電した電力を代替し、大気中へのメタン放出を回避することで、温室効果ガスの排出を削減している。発電した電力の60%以上を施設内で使用し、残りは電力会社に売電している。



先端廃棄物処理技術の導入は持続可能な公共インフラの整備に貢献している。プロジェクトを通して、1日約60トンの廃棄物が処理され、瓶やプラスチック等のリサイクル可能な材料は別のリサイクルプロセスによって処理される。これらの取り組みは埋立廃棄物の削減に貢献している。このような技術向上は、ミャンマーがより持続可能な生産へと移行するのをサポートしている。



適切な廃棄物処理を通して海洋汚染の軽減に貢献している。



JCMに参加し様々なステークホルダーと協働することで、低炭素・脱炭素技術の普及を促し、両国の政府やビジネスセクターのパートナーシップを強化している。

ご清聴ありがとうございました。